日本の知恵、プラスチックの知恵

竈（へっつい）

国立国会図書館所蔵

竈が語る、東西の台所事情

「竈の火を吹くと良い事がある」という諺は、現代のガスや電気のように簡単に火力調整ができない昔、火吹き竹で空気を送る苦労を労った言葉だったようです。

江戸時代に入ると、水屋の流しと火を使う竈が屋内に配置されますが、東西の台所事情には違いがありました。いずれも堅牢性や耐火性のある土や石などで作られる竈ですが、江戸の竈の土は黒色で銅の壺を用いたりすることもありました。一方、京坂は黄色の土で、竈の底や周囲に瓦を防火材料として貼り固めて設置しました。鍋を置く火口の数は、どちらも奇数でしたが、住空間が狭い江戸は1個から3個くらい、これに対して京坂は3から7個と家族の人数に応じて機能的に設置されました。

この竈が持つ堅牢性や耐火性のように、住友ベークライトのカイダックは、ポリカーボネートに匹敵する高い耐衝撃性に加え、優れた難燃性、成形性、耐薬品性などの特性を持つ塩化ビニル樹脂プレートです。鉄道車両の内装材、医療機器、OA機器のカバーなどの成形材料としてさまざまな用途に使用されています。

カイダック®

プラスチックのパイオニア
住友ベークライト株式会社

産業機能性材料営業本部
〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル
TEL:03-5462-4111 FAX:03-5462-4873 https://www.sumibe.co.jp あ